

## 第97回城山地区まちづくり会議全体会結果

日 時：令和4年7月21日（木）

午後7時～午後8時20分

会 場：城山総合事務所第1別館2階B会議室

出席者：22名（欠席3名）

傍聴者：1名

1 開 会 佐藤所長

2 代表あいさつ 齋藤代表

3 議 題

### （1）第7期相模原市緑区区民会議委員について

事務局から区民会議の概要説明を受けた後、協議した結果、次のとおり推薦することとした。

第7期相模原市緑区区民会議委員 齋藤信夫代表

### （2）令和4年度城山地区まちづくりを考える懇談会のテーマと内容について

事務局から資料2に基づき、各委員に対して実施した令和4年度まちづくりを考える懇談会実施に関するアンケート結果についての説明がされた。その後、アンケート結果を踏まえ、テーマについての検討を行い、各委員からの意見をもとに役員会などでテーマや概要を決めていき、次回全体会で役員会での内容を踏まえ検討をすることとなった。

#### 《 主な意見 》

- ・国道413号の自転車の通勤通学路における道路行政の将来構想について市と懇談したい。
- ・若葉台地区は高齢化率も高く、今後高齢者の移動の問題がある。今後の移動支援における市の対応や住民ができることについて懇談したい。
- ・人口減少の問題として子どもの問題が大きい。子どもが地域の中でどのように育っていくか。相模原市の合計特殊出生率は全国平均より低い。子どもをどのように地域で育てるか。そういったことを意見交換したい。地域がどのようにすべきか懇談したい。
- ・小倉、葉山島地区は高齢者が多く、免許を返納すると移動手段がなく生活が困難となる。また、移動手段がなくなると家に閉じこもりがちとなり認知症の始まりとなってしまう。コミュニティバス等の移動支援の対

策が必要と考える。

- ・城山地区全体を考えると、川尻財産区の土地が有効利用されていないことから、今後の見通しなどを懇談したい。
- ・懇談会のテーマとしては、城山地区の状況が良くなるようなテーマが良い。幹線道路の歩道の整備、自転車交通等がよいのではないかな。ただし、懇談会で要望してもすぐに回答が得られないのではないかな。まちづくり会議として提案することは良いが、回答を求める提案をするのであれば他のテーマの方が良いと考える。
- ・移動手段について、高齢者に拘らず懇談したい。
- ・移動手段を確保するために介護保険を利用するという人もいる。何らかの移動支援の制度があるだけで、介護サービスを利用しないで、自立した生活を送ることができることもある。
- ・1つではなく、複数のテーマが良いと考える。橋本駅にリニアが入ってくることから、どのように城山地区は生かしていく必要があるか検討したい。鳥屋にある車両基地に向かう路線を旅客化できないかな等についても意見交換したい。情報が少ないため、情報収集のため意見交換したい。
- ・城山地区は観光資源として様々な良い場所がある。緑区では中山間地域対策を行っているが城山地区は対象に入っていない。もう少し城山地区の観光振興に取り組んでもらいたいので、その点について意見交換したい。
- ・城山地区は都会もあり田舎もある。少子高齢化の中、城山地区の特性を生かした移住促進、空き家問題を検討することで城山地区の少子化の問題について懇談したい。
- ・免許返納をすると家に閉じこもり、人とのかかわりがなくなるため、人が集える場を作っていく必要がある。
- ・皆さんの意見を聴いていると、高齢者の移動支援や交通環境の整備について地域の課題として考えられるため、そういったテーマが良いのではないかな。
- ・歩道の整備や自転車レーンの整備について懇談したらどうか。城山地区内でも危険な箇所はあり、命に関わる問題のため懇談する必要がある。
- ・中学生を持つ親に聞くと、子どもの居場所がないという話を聞く。町田の相原にパオというところがあり、登録をすると利用ができ、何をするわけでもないが居場所が確保されている。そういった場所が城山地区にも必要ではないかな。
- ・学生の活動でも子ども食堂があり、食事を提供したり、勉強を見てあげたりしているが、NPOや学生などの活動に任せきりで、行政がもっと関わりをもって対応してほしい。

- ・高齢者の移動支援については、過去に懇談会は中止となり書面で回答をもらっているが、まちづくり会議もメンバーが変わっていることから、考え方が変わっているので同じテーマで行っても良いのではないか。
- ・齋藤代表から高齢者の移動支援と歩道や自転車の交通環境の整備に関する意見が多いと感じられた。役員と事務局で整理し、次回の会議で提案させていただきたい。
- ・小島委員からは、懇談会のテーマは、高齢者の移動支援や歩道・自転車レーンの整備についてで良いと思うが、質問で済むものは文書で後日回答をもらう形で整理してほしいとの意見があった。

### (3) 城山地区で具現化していく取組について（部会検討）

全体会では、事務局から資料3、参考資料1・2、資料4に基づき、各部会での検討事項の説明がされ、全体会終了後に各部会に分かれ検討を行い、各部会検討終了後解散となった。

## 4 閉 会 八木副代表

以 上

### 【全体会終了後の各部会での検討内容】

#### ●高齢者ととともに築き支える地域づくり部会

##### しろやま☆おせっかいの取組について

前回に続き、「おせっかい」とは何か、「おせっかい」さんってどんな人、「おせっかい」さんって具体的にどんなことをしている等について、検討がされた。

#### 《 主な意見 》

- ・おせっかいの見える化ということで、子ども110番の家のようなおせっかい110番の家をつくってはどうか。登録制とし募集をしてはどうか。
- ・子ども110番の家を貼ってある家どうしでの意見交換会等はあるのか。
- ・年1回、件数や内容の調査が市からくる。
- ・ステッカー等を作成することにより、おせっかいの運動の見える化に繋がる。
- ・どんな人がおせっかいか。

- ・ほっとけない性格の人、よく気が付く人、優しい人。
- ・散歩をしていてちょっと気になる家があるな、様子がおかしいなと気づいたら、必要な機関に繋げる。ただ、近隣にしゃべるだけであると信用がなくなる。おせっかいの目的を知ってもらうことも必要。そういう人を集める様な取組をする必要がある。
- ・おせっかいな人を増やすことや集めることなどは課題ではあるが、今はおせっかいとはどんなことかを考えていきたい。
- ・サロンを主催している人、消防団の人、ママ友関係のある人。
- ・おせっかいの活動は、特別感を持たせないようにしなければならない。特別感を持たせると重たくなり敬遠される。お互い様の意識でお互い助け合いましょうという気持ちが必要。
- ・地域のイベントに参加する人、健康づくりをしている人、シニアサークルに参加している人。こういった人は、情報があり、お世話をするのを嫌がらない。他人と関わりたくない人は参加しない。
- ・消防団、お囃子は繋がりが強く地域の情報を持っている。
- ・日赤の活動を行っている人、元民生委員、元自治会長は地域に関心があるから積極的に関わってくれる。
- ・おせっかいは、あまりいい響きではない。ここでのおせっかいは、相談されるからおせっかいではなく、困っている人にそっと声をかけるのがおせっかい。
- ・困った人、自分ではどうしたらよいかわからない人にそっと声をかける、それが声かけネットワークであり、おせっかいでないといけない。
- ・しろやま☆おせっかいのチラシにもある電気がつけっぱなし、洗濯物が出しっぱなし、ポストに新聞がたまりっぱなし、これらは気づきの要素。散歩の途中で何かいつもと違うそういった気づきもおせっかい。
- ・キーワードは気づきと声かけ。
- ・おせっかいをどう見える化させるか、どうおせっかいを具体的に行っていくか。今後こういったことを考えていきたい。
- ・これまでの話しでおせっかいはどういう人は概ね理解できたと思うので、各自おせっかいな人がどのくらいいるか思い浮かべ、そういった人をどのようにして、このしろやま☆おせっかいに継続的に関わってもらうか、具体的なおせっかいをどう進めていくかを考えていきたい。
- ・見える化については、賛成。この取組は認知症サポーター養成講座に似ているように思え、皆さんの蓄えたおせっかいのポイントを講座形式にして、受講が終了したら、見える化したステッカーを家に貼ってもらい、興味がある人に皆さんの知識を広めていってはどうか。

## ●子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

### 子どもたちが主体的に活動できる取組についての素材検討

前回部会后、各部会員に行った子どもたちが参加できる活動・行事（イベント等）や活用できる地域資源についての事前調査の集約結果をもとに引き続き検討を行った。その結果、今回の資料4の項目で情報発信する場合、何が必要か、時間や季節などあれば手書きでもいいので記載してもらい、事務局に8月末までに提出することとなった。

#### 《 主な意見 》

- ・いくつかに分けて youtube で情報発信をしたいと思っている。
- ・情報提供として、お祭り、お囃子は動画のほうが情報をより伝えることができる。
- ・情報発信とは、誰にどのように行うのか。
- ・相手を特定しての発信ではなく、広く子どもに対しての発信。ただ、小さい子どもは、自分で見たりできないので、どうしても保護者になってしまう。
- ・子どもたちが自主的に活動する、子どもたちにどのようにしたら自主的に活動するかというテーマだと思うが、情報発信だけだとテーマがそれてしまっている。
- ・本来のテーマは、子どもたちが何をしたいかを汲み取って、それをどうやりたいか、どうしたらできるかを考えさせるところにある。
- ・元々は、子どもたちが何をやりたいかを子どもたちを集めて、NPO やファシリテーターが汲み取っていく予定であったが、コロナ禍で子どもを集めることができないため、youtube を使った情報発信ということとなった。
- ・これだけ、地域資源、素材が集まったのであれば、スタンプラリーとかでもいいのではないか。動画も取って youtube に上げてもいいのではないか。その場所に行ったらスタンプやシールを押して、youtube を見たらまたスタンプやシールを押したらどうか。スタンプやシールを集めることが目的になってしまうかもしれないが、その場所に行くきっかけとなる。地域のことを知ってもらうことも必要。まず子どもたちに地域のことを知って、実際に行ってもらい、興味を持ったなら学んでもらう等いくつかのステップがあると思う。
- ・今検討していることは、こういったものがあるということを発信して、行ってもらったり、調べたり、そういった素材を情報発信するにはどういったものが良いかということか。
- ・どれに興味があるかという情報がないとこの先が進まない。子どもた

ちがどういったことをやりたいか、そういった素材を集める必要がある。子どもたちに聞かれたときに情報提供ができない。

- ・ P T A、育成会、子ども会が各地区にあるが、何かを行う際は、子どもたちがしたいことを行っているのか、ただ大人が決めやっているのか。
- ・ 久保沢の育成会では、子どもたちが主体的に行う事業と大人たちが考え行う事業がある。子どもたちがしたいと言ってやっていることにハロウィンがある。この企画は、子どもたちに人気がある。このハロウィンを城山地区全体に広げてはどうか。
- ・ 各地区の育成会や子ども会の集まりの時に子どもたちが何をしたいかを抽出してもらったらどうか。
- ・ 各地区では、顔を知っているのが良いが、地区全体となるとみな顔見知りではないのでなかなか意見が出てこない。各地区の育成会や子ども会をまとめる組織がない。
- ・ ある程度顔を知っている中でやっていき、それを徐々に地区全体に広めていくのが良いのではないか。
- ・ 子どもたちがしたいことをできるようにする場を作るのが大人の役割。
- ・ 何もないところで子どもたちに何がしたいかを聞いても意見が出てこないだろうということで、情報を集めようということである。ただし、情報発信の仕方子どもたちの選択肢を狭めてしまう恐れもある。
- ・ 情報発信をした後、やりたいという意見が出た後、それを行うのはまちづくり会議の部会なのか。
- ・ やりたいという意見がでて、それをそのまま子どもたちに人を集めさせて、やらせるのは難しいと思う。そういった場を作ってあげることとなる。
- ・ 旧市では、公民館の青少年部があり、よく来る子どもたちを集め、公民館まつりの企画を考えている。お化け屋敷をしたりお菓子を販売したりしている。
- ・ これやりたいという時にこれがあるよという情報を教えられるシステムがあればよい。その方法が集まっているのが今回の資料なのかなと思う。
- ・ 紙媒体等で子どもに配ってもいいのではないか。
- ・ 紙で配ったものにQRコードを入れ内容を見られるようにしたらどうか。
- ・ 発信するのに必要な情報があるが、場所とか季節とか。そういったことの整理が必要ではないか。

以 上